

才4図はAB断面、CD断面(第1図参照)での鉛直水温分布である。才2図にみられる変動に対応して鉛直断面からもかなり大きな変動が認められるが、断面ABの緯度  $35^{\circ}45'N \sim 36^{\circ}00'N$ の間では温度構造から100m以浅の東向流の下層にはっきりした西向流の存在が4回の観測結果に共通してみられることが注目される。この表層の東向流は局所的な高気圧性渦動に対応するもので、対馬暖流の流れに該当する流れは100m以深の温度構造に示される西向流であると考えられる。

〔文 献〕

- 1) 川合英夫(1970):冷水域移動の観測設計について、水産海洋研究会報 16.
- 2) 小川嘉彦(1969):島根沖冷水域に関する研究、水産海洋研究会シンポジウム講演。

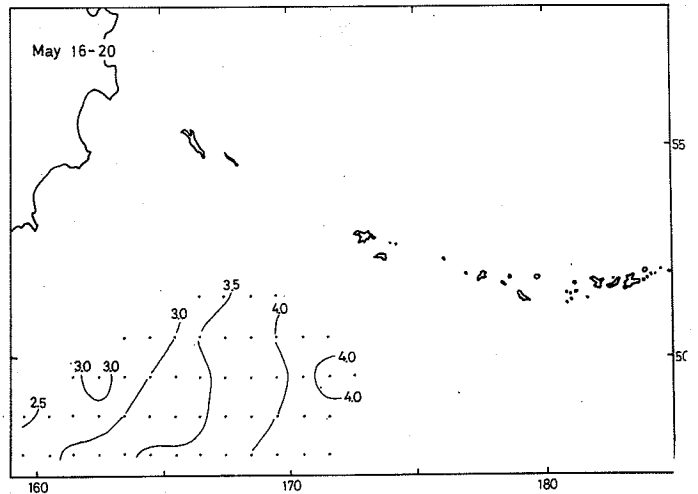
2. 10年間平均した北洋の半旬平均表面水温図と旬平均50m水温図

進士福太郎・片桐 清之(気象庁)

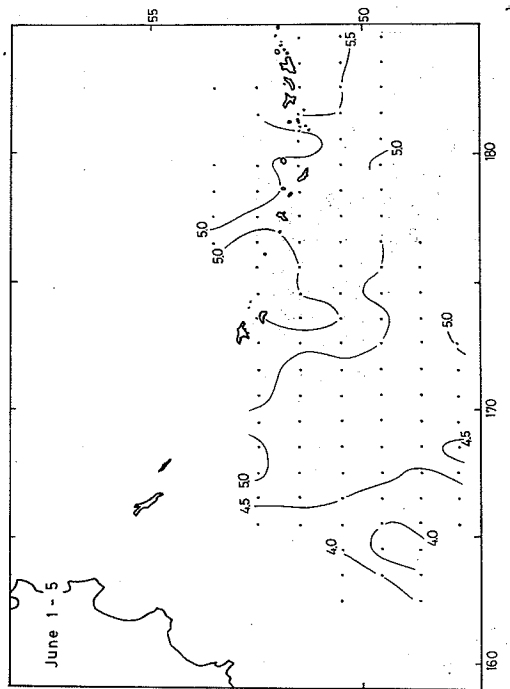
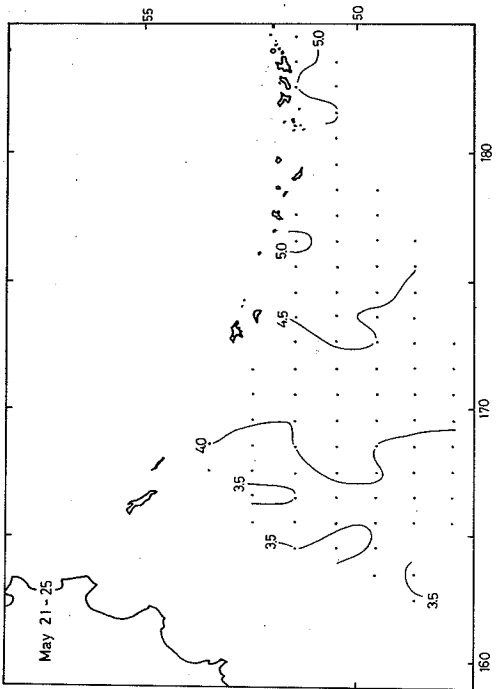
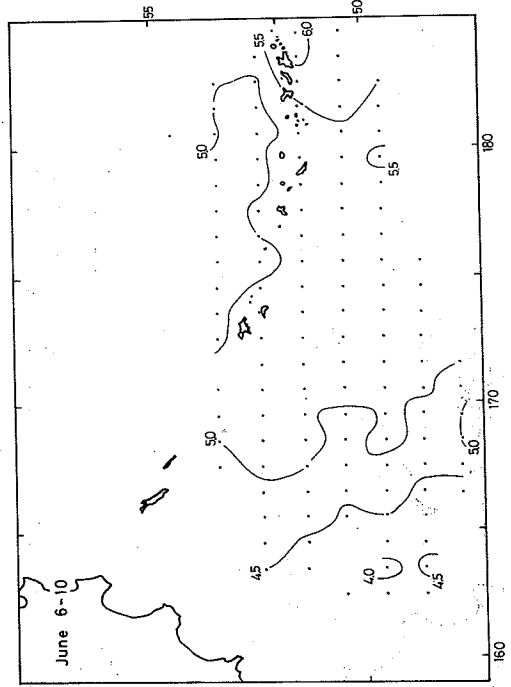
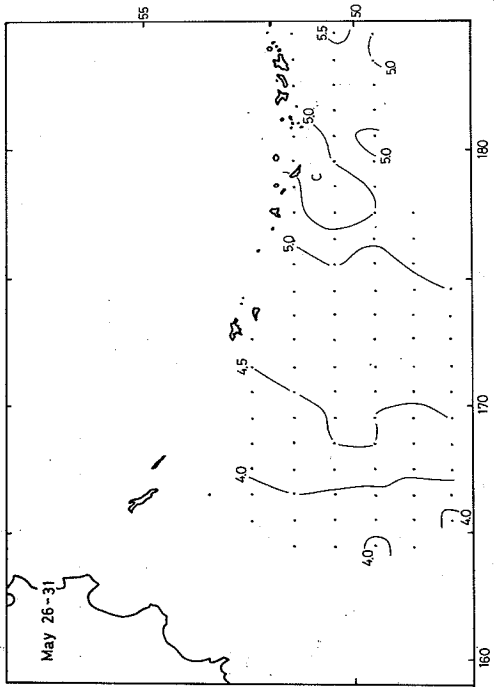
本図は、今後北洋を調査される方の参考資料にと思い作成したものです。

資料は、北洋サケ・マス船団が1960~1969年の5月16日から7月20日まで観測した“北洋海況旬報”に記載されている、1度柵目半旬平均表面水温と1度柵目旬平均50m水温の値です。

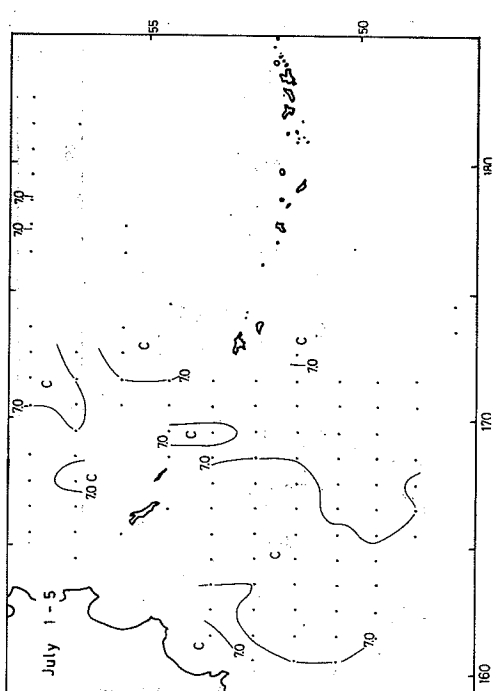
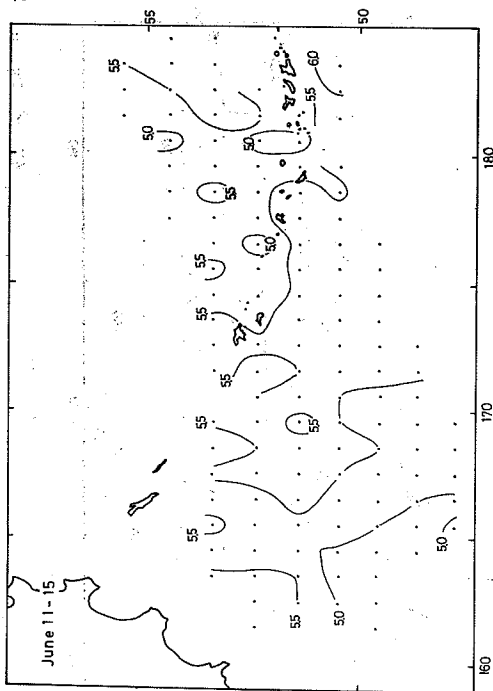
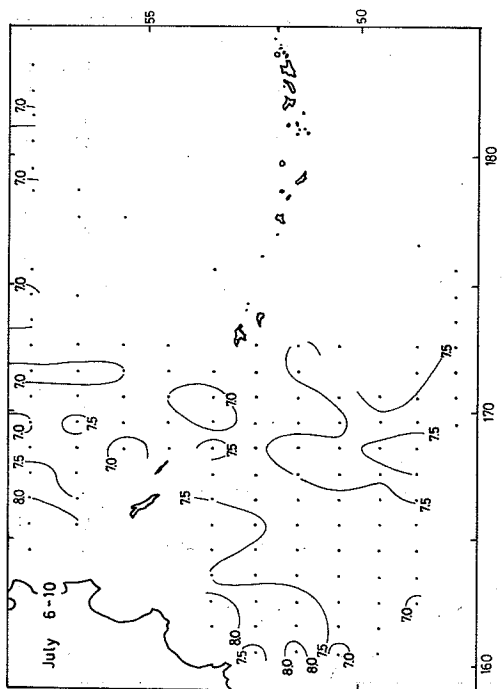
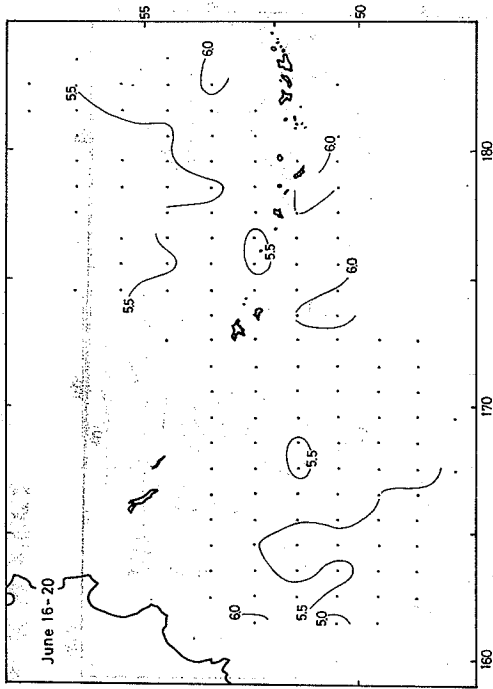
次に示す表面水温と50m水温図は、片桐が1度柵目半旬(旬)平均値、その年数(個数)・標準偏差を算出し、進士が1度柵目に5年(5個)以上ある柵目だけを選び(漁場が変わるため、やむを得ずこのようにした)、白地図に移し製図したものです。



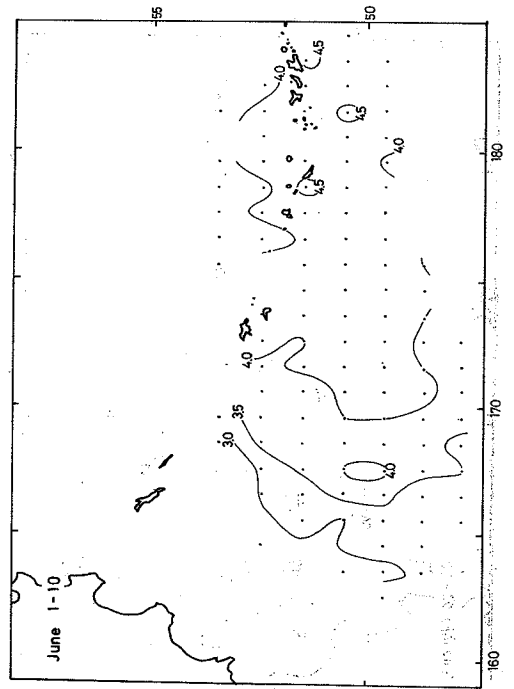
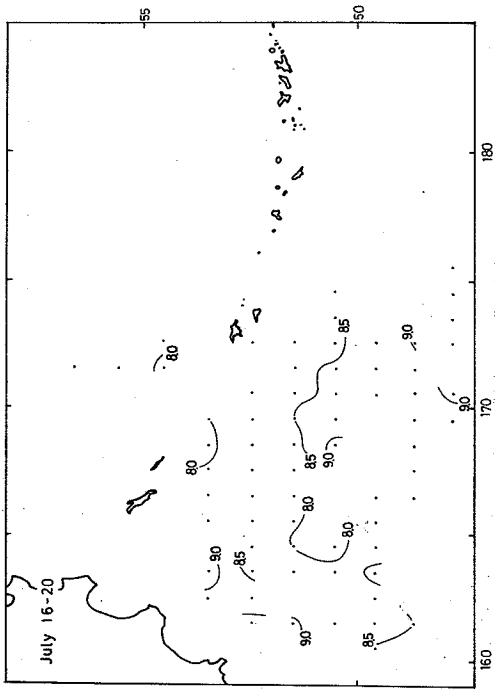
半旬平均表面水温図(℃)



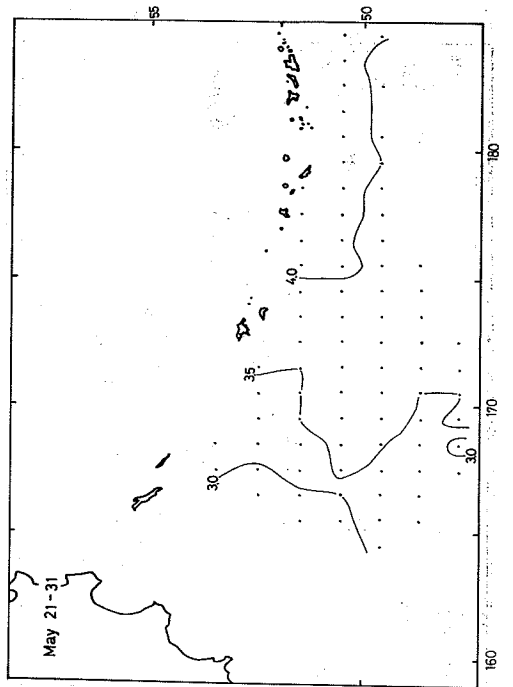
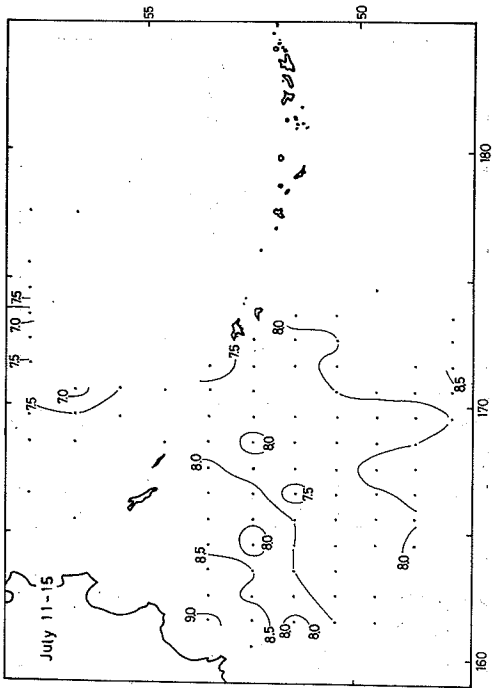
旬平均 500m 水温図(°C)



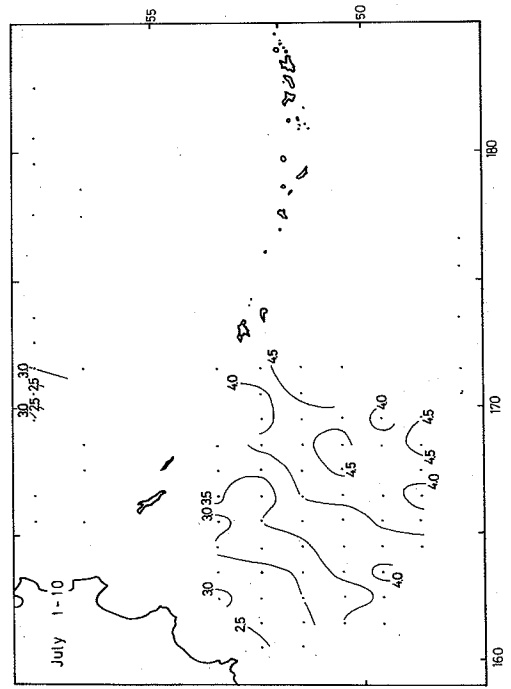
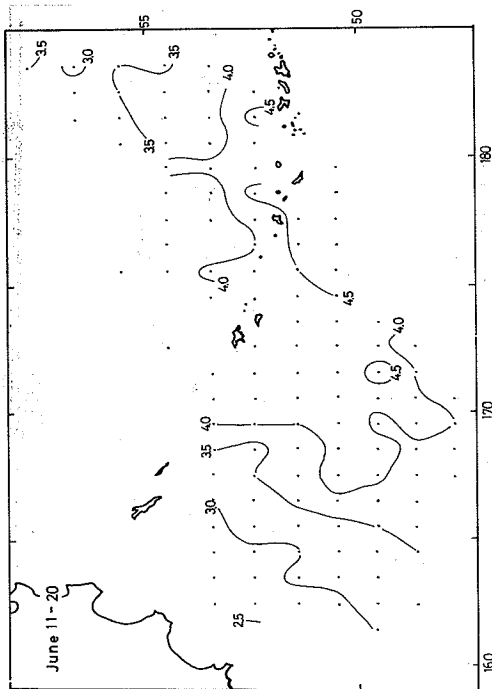
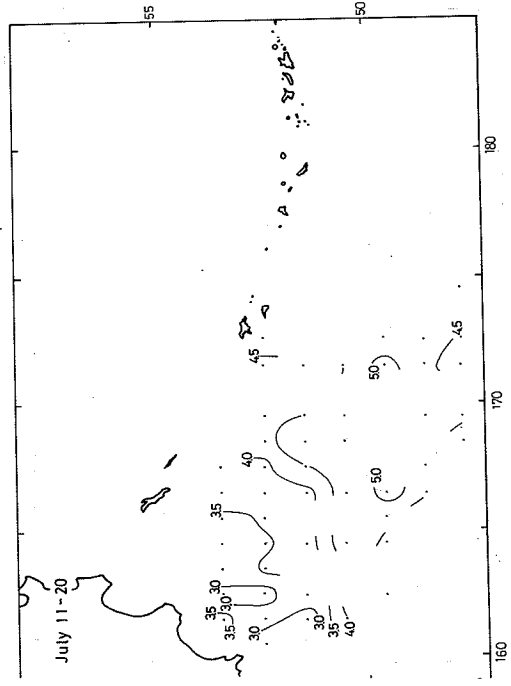
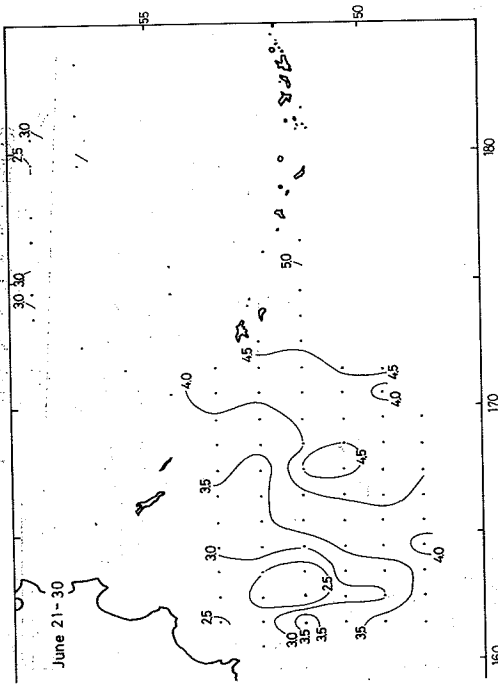
半月平均海面水温图(°C)



下：旬平均50m水温図(°C)



上：半月平均表面水温図(°C)



旬平均表面水温図(°C)